NO.５６　令和３年　秋号

提案・改革・解決力！～明日の太田へ～　https://www.facebook.com/takashi.kubota.54

久保田たかし活動最前線

発行：久保田たかし後援会・太田市民懇話会

令和２年度決算を認定しました

９月１日から２４日までの２４日間で行われた９月定例会では令和２年度の決算審査や今年度の補正予算審議が行われ、すべて原案のとおり可決承認されました。今定例会では決算特別委員会の委員として審査に加わった他、令和３年度９月補正予算に対し質疑を行いました。

令和２年度決算の概要

◆厳しい環境を堅実財政で乗り切る

令和２年度の経済環境は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために市民の社会経済活動は大幅に制限され、感染症による景気の下押しは、前年度の落ち込みから持ち直そうとしていた中で大きな打撃となりました。

こうした中、基幹収入である市税が約３８０億円と前年度より大幅に減少しました。

令和２年度は第２次太田市総合計画の第４次実施計画を基本に義務教育学校施設整備事業や運動公園陸上競技場建設事業などの主要事業に取り組みました。

今後も健全財政を堅持しつつ市民ニーズを把握し、きめ細やかな行政サービスが続けられるよう活動していきます。

◆一般会計決算の概要

令和２年度の一般会計における歳入総額は１，１１９億４，５１１万７千円、歳出総額は１，０８８億５，１１８万９千円で、前年度比で歳入は４０．９％、歳出は４１．７％の増となりました。

決算特別委員会　質疑の様子

歳入歳出差引額は３０億９，３９２万８千円となり、今年度への繰越事業に充当する９億１，８９１万４千円を差し引いた実質収支は２１億７，５０１万４千円の黒字となりました。条例の定めにより財政調整基金に２０億円を積立て、差し引き１億７，５０１万４千円を今年度への繰越金としました。

歳入では市税が４．２％の減など厳しい中で、財産収入や寄付金、諸収入が大幅増となり自主財源を支えました。一方で国庫支出金や市債発行が増加し自主財源比率は１８．９ポイントの減となりました。

【令和2年度決算収支の状況】

区　分		金　額	備　考
歳入総額	①	１，１１９億４，５１１万７千円	対前年度比　＋４０．９％
歳出総額	②	１，０８８億５，１１８万９千円	対前年度比　＋４１．７％
歳入歳出差引額	③	３０億９，３９２万８千円	（①－②）
翌年度に繰り越すべき財源	④	９億１，８９１万４千円	（令和３年度繰越事業へ充当）
実質収支	⑤	２１億７，５０１万４千円	（③－④）
財政調整基金積立金	⑥	２０億０００万０千円	（条例の定めによる積立金）
繰越金	⑦	１億７，５０１万４千円	（令和３年度へ繰り越し）

決算特別委員会での質疑要旨

◆事業終了後は検証が大事

太田駅周辺は再開発が進み、まちの見た目も変わり地価も上昇してる。平成３０年度に完成した南口第２地区再開発には市から７億円以上の補助金が支出されている。市は固定資産税を中心に大幅な税収増が見込まれ、補助分は短期間で回収できるとしている。現在、浜町第２地区の再開発が始まっているが、先に実施された補助事業の効果検証は行われていない。特に多額の税金を投入している事業は、必ず効果を検証しなければならない。

◆救急医療体制の強化のために

市内の救急指定６病院の患者受け入れ数に大きなばらつきがる。将来にわたって救急医療体制を維持していくために、受入数に見合った補助金のあり方に変えるべきだ。

◆行政区を見直す時期ではないか

人口減少が進む中で、地域活動が難しい地区があるのではないか。将来を見据え、合区等を検討する地域があると思うので、行政主導で地域に投げかけてみてはどうか。

◆女性防火クラブの今後

「家庭から火を出さない」をモットーに活動しているが、なぜ女性なのか。男女平等、ジェンダーフリーが叫ばれる時代の中では違和感がある。女性に限定することなく、例えば「家庭防火クラブ」と改称することも検討すべきだ。

補正予算に対する質疑要旨

◆健全な財政運営の継続を求める

今回の補正により、財政調整基金からの繰り入れを減額し、その分を臨時財政対策債の増額発行で補う形をとっているが、借金を減らすための「償還元金を超えない市債の発行」という本市の財政規律が守られるのか。まちの将来負担を減らすためにも、堅実な財政運営をしていかなければならないのではないか。

◆本当に困っている人を救うのが行政

渡良瀬産業団地や新田東部工業団地に進出予定の企業に、製造業については、用地取得額の１．５％を、非製造業については、０．７５％を助成するという新たな制度を設けるが、市内中小企業や商店、飲食業などまだまだ困窮している多くの事業者や市民がいる。今どこで誰が困っているのかを改めて洗い出し、本当に困っている人を救うことが行政の役目ではないか。

補正予算に対する議案質疑の様子

会派「創政クラブ」では、新型コロナウイルス感染症対策のための提言書を市長に提出したり、右の記事のように市民の政治への参画意識を高めるための取り組みを行っています。議長在任中は、常に議会全体のことを考え行動していましたが、考え方や政治姿勢が異なる会派をまとめるには時間がかかり、期を逸することがありました。その点、会派は同じ考えを持った議員の集まりなので、目標さえ共有すれば、そこに向かう手段を一致させるのに時間はいりません。これからも機動力のある会派運営に務めていきます。

ご意見・ご感想をお寄せください。
相談ごともご遠慮なく下記までどうぞ。

久保田たかし後援会
自　宅：太田市天良町12-3
事務所：大泉町坂田1-1-1
ＴＥＬ：0276-61-9926
ＦＡＸ：0276-61-8993
e-mail：takashi.Kubota.8734@gmail.com

大学生との意見交換会を開催しました

市民の政治離れが叫ばれ始めてからずいぶん時間が経ちました。特に若者の無関心は選挙の投票年齢を引き下げても一向に改善しません。

私の所属する会派「創政クラブ」では少しでも議会や市政に関心を持ってもらうために、関東学園大学の学生と意見交換会を開催しました。

参加者は学生が９人、議員は１１人で３グループに分かれて、議会の役割などを説明したほか、市の取り組みなどについて意見交換しました。

議員からは、政治の道を志した理由や日ごろの活動などを紹介し、太田市の将来のためにより良い政策が提言できるように議員同士が切磋琢磨していることを説明しました。

学生からは「議会に市長が出ていたので驚いた」「一般質問では身近な話題を議論してくれていることが分かった」などの感想がありました。

これからもいろいろな団体と交流を進め、政治への関心を高めていけるよう活動していきます。